



閉塞性動脈硬化症について ③

閉塞性動脈硬化症とは、主に足の血管に起こる動脈硬化です。初期の症状は足の痛みやしびれなどですが、重症化するとの切断となることもある怖い病気です。また、この病気の認知度は心不全や心筋梗塞などと比べると低く、足の症状を年齢や体力低下による影響と思われる方も多いため注意が必要です。

今回は閉塞性動脈硬化症の治療について総合大雄会病院循環器内科の谷信彦が解説します。

第三回 閉塞性動脈硬化症の治療について

【運動療法】

主に間欠性跛行(はこご)と言われる歩行時の痛みを訴える患者さんに行います。病院内で器具を用いたり、専門のリハビリスタッフの指導のもとで歩行練習をします。また、自宅などでも運動療法を行うことも重要です。運動の目安としては症状が出始める程度の強度で歩行し、痛みが中等度となったら安静にすることを繰り返します。

【薬物治療】

血栓を防ぐため血液をサラサラにする抗血小板薬を使用します。また、血流を改善するために血管を拡げるための血管拡張薬を使用することもあります。

【血行再建術】

運動療法や薬物療法を行っても症状が改善しない人には、血流を改善するための治療が必要となります。血流を改善す

るための治療は大きく分けて、カテーテル治療と外科手術に分けられます。

カテーテル治療は狭くなった血管にカテーテルという医療用の細い管を挿入して、バルーン(医療用の風船)で膨らませたり、ステントと呼ばれる編み目状の金属の筒を留置し広げる治療です。最近では、薬剤溶出性バルーンという薬剤を血管内に塗布する機材も使用可能となっています。

一方、広範囲に渡って狭くなっている場合などは、カテーテル治療のみでは対応できないこともあり手術が必要になります。手術は別の部位の血管や人工血管を用いて、血流が悪くなった部位を飛び越えて迂回路(バイパス)を形成する方法が取られます。

次回は閉塞性動脈硬化症の予防について解説します。ご期待ください。



監修

循環器内科診療副部長 兼
救命救急センター内科部門診療部長

谷 信彦 医師

(主な資格)

・日本内科学会 総合内科専門医
・日本循環器学会 循環器専門医

